

令和3年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和3年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・5月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、本調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用していきたいと思っております。

また、本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひご利用ください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数」「中学校 国語・数学」において実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語	高い	高い
	算数	高い	高い
中学校	国語	やや高い	高い
	数学	高い	高い

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成 果	課 題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること ○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること ○漢字を文の中で正しく使うこと ○文の中における主語と述語との関係を捉えること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉えること ▲目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること ○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲速さを求める除法の式と商の意味を理解すること ▲条件に合う時刻を求めること ▲三角形の面積の求め方について理解すること

算 数	<p>○データを二次元の表に分類整理すること</p> <p>○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断すること</p> <p>○商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算すること</p> <p>○小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述すること</p>	
--------	--	--

○国語の力は、全体的に優れています。特に、「漢字を文の中で正しく使うこと」がよくできていました。

「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること」や「文の中における主語と述語との関係を捉えること」もよくできていました。

▲「文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉えること」については、課題がありました。文章の内容を理解する場合だけでなく表現する場合にも、それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解することが重要です。主語、述語の関係についての理解を深め、修飾、被修飾の関係に気を付け、文を構成する力をつけていきます。

○算数では、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題がよくできていました。複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる問題もよく理解できていました。また、除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することや小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考えを表現するなど、思考・判断・表現の分野がよくできていました。

▲速さは、単位時間あたりの距離であることを問われる問題において、1分間あたりに長い距離を進んだ方が速いという商の意味を理解することに課題が見られました。また直角三角形の面積を求める問題では、基本的な図形の求め方について理解することに課題が見られました。三角形において、底辺と高さの関係を理解できていなかったり、公式の中の「 $\div 2$ 」の意味を確実に理解していなかったりということが考えられます。図形の意味を理解することと繰り返して学習に取り組むことに力を入れていきます。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	<p>○話し合いの話題や方向を捉えること、話す内容を考えること</p> <p>○文脈に即して漢字を正しく読むこと</p> <p>○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと</p>	<p>▲書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること</p> <p>▲相手や場に応じて敬語を適切に使うこと</p> <p>▲書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと</p>

数 学	○扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解していること	▲具体的な場面で、一元一次方程式をつくること
	○与えられたデータから中央値を求めること	▲問題場面における考察の対象を明確に捉えること
	○ヒストグラムからある階級の度数を読み取ること	▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること
	○錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解していること	

○国語では、話し合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりしながら、話す内容を考えることがよくできていました。2年前の調査では、課題であった点が成果として上がっていることから、前回の課題を学校全体として取り組んだことが伺えます。話し合いの進め方はもちろん、自分の考えとの共通点や相違点を整理することや相手の発言を受けて自分の考えをまとめることができるよう、いろいろな場面で話し合い活動を行い、さらに話し合いのレベルを上げ、コミュニケーション能力の向上につなげていきます。漢字に関する力は小学校とともに高い結果が出ており、大変すばらしいです。日頃の学校や家庭で取り組んでいる積み重ねが大切であることを表しています。

▲一方、意見文を書く問題では、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことや文章の構成の工夫を考えることに課題が見られました。根拠を明確にし、その根拠が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えながら、説明や具体例を加えて書く学習に力を入れていく必要があります。また、読み手からの助言を踏まえて、自分の書いた文章の良い点や改善点を、書き手自身が見出す学習を充実させていきます。

○数学では、中央値を求める問題、表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題、ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題がよくできていました。資料の活用において、知識や技能の分野は確実に理解しています。また、図形の領域については、扇形の中心角と弧の長さや面積の関係と錯角が等しくなるための2直線の位置関係を正しく理解できていました。図形についての知識は、前回(R1)と同様にしっかり身につけていると言えます。これで満足せず、その知識を活用して説明するところまで確実にできるようにしていきたいです。

▲課題は、整式の加法と減法や一元一次方程式などの基礎・基本の問題です。正答率は低くなかったものの、県平均を下回りました。日々の積み重ねが結果に表れますので、正確に解くことを意識して取り組んでいく必要があります。また、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題に苦戦しました。じっくり読み、問われていることを理解する力が問題を解くための糸口になると考えられます。全般的に見ても、分野を問わず、数学的な見方や考え方が十分に定着していないということが伺えます。まずは、問題を読んで何を問われているのかを確実に捉えること、そして考えを整理して答えを導くために何が必要であるのかを見極めることを鍛えていけるとよいです。さらに、自分の考えを文章にする力は重要ですので、授業においては、特に表現することに力を入れていきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、一昨年度と比較して改善が見られるものや県の平均値と比べて明らかに上回ったものを中心に、「改善したい点」として、一

昨年度と比較してよくない結果となったものや県の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。

<小学校>

良好な点	改善したい点
<p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童の割合が増加している。 (R1 68.4% → R3 75.0%)</p> <p>○国語の授業の内容がよくわかるにあてはまると答えた児童の割合が増加している。(R1 55.2% → R3 57.2%)</p> <p>○算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いているにあてはまると答えた児童の割合が増加している。 (わけ R1 52.3% → R3 57.8%) (ノート R1 64.4% → R3 71.1%)</p> <p>○学校に行くのが楽しい(市 90.0% 県 87.5% 国 84.4%) 友達と協力するのは楽しい(市 97.3% 県 94.3% 国 93.9%)と感じている児童の割合が県や国と比較して多い。</p> <p>○地域の行事に参加している、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童の割合は、県や国に比べ圧倒的に多い。 (参加 市 88.3% 県 75.4% 国 58.1%) (すべきことを考える 市 63.9% 県 55.8% 国 52.4%)</p> <p>○学習の中で、ICT 機器を使うのは勉強に役立つと感じている児童の割合は、県や国に比べ多い。 (市 97.8% 県 95.2% 国 94.5%)</p>	<p>▲朝食を毎朝食べ、寝る時間起きる時間が決まっている規則正しい生活をしている児童の割合がやや減少している。 (朝食 R1 97.7% → R3 96.1%) (寝る R1 86.2% → R3 83.9%) (起きる R1 98.2% → R3 92.8%)</p> <p>▲将来の夢や目標が明確でない児童の割合がR1に比べて増加している。 (R1 10.9% → R3 19.7%)</p> <p>▲難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると感じている児童の割合が大幅に減少している。 (R1 88.0% → R3 78.3%)</p> <p>▲学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童の割合が大幅に減少している。 (R1 85.6% → R3 73.3%)</p>

○自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動は、勝山市全体で環境教育、ふるさと教育を柱にしたESDを推進してきた成果だと言えます。自分たちの住む地域にある身近な課題に目を向け、どう解決していくかをみんなで見つけ合いながら、未来の勝山のことを思って学習を進めていくことは、将来必要とされる主体性や探究心を育成することに大きく関係していると感じます。継続してESDに取り組み、将来の勝山を支えていく人材を育てていきます。

○学校に行くのが楽しい児童の割合が多いことは、学校生活が充実しており、仲間との関係も良好だということが伺えます。学習はもちろん、絆づくりや仲間を思いやる気持ちを育てることに力も注いでいきます。ご家庭でも、お子さまとの会話から学校での様子を把握し、学校と連携を図りながら、楽しく安心できる学校づくりにご協力ください。

○地域との関わりについては、継続して意識の高さが見られました。特に、活動を通して勝山のすばらしいところや勝山に必要なことやものが何であるかを意欲的に主体的に探そうとする児童生徒が増えた

ように感じます。地域の協力を得て、見学や体験を交えた学習を行うことにより ESD が充実している成果だと考えられます。今後も地域と連携しながら、ふるさと教育、環境教育を柱とした ESD に取り組んでいきます。

○▲「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」児童の割合は、県や全国の平均に比べると上回っていますが、R1 に比べるとやや減少しました。家庭学習時間もやや減少済みです。これらの生活リズムが安定することによって、心身の状態も安定し、充実した活動につながります。定期的にお子さまとともに生活を振り返る時間を持っていただき、よいリズムを保つためにはどうするとよいかの確認をお願いいたします。朝ごはんは脳を活性化させると言われていますので、毎日必ずとる習慣を継続して行ってほしいです。

▲平日、学校の授業時間以外では全く読書をしないという児童が4人に1人います。また、新聞をほとんど、または、全く読まない児童が2人に1人います。コロナ禍でおうち時間が増えた中で、読書や新聞を読む時間が増加しそうでしたが、逆に減少しました。習慣化を図るためには、本や新聞に興味を持たせる工夫が必要です。

▲質問の回答全般を通して、R3 の調査対象児童は、積極的に考えたり、物事に取り組んだりすることが苦手な傾向が読み取れます。全国的に見ても同じことが言えますが、コロナ禍でいろいろな活動に制限がかかっていることが原因と考えられます。今できることを、前向きに捉えた指導の工夫をしていくことで、児童自身が前向きに捉え、さらにのびるチャンスにしていけるよう勝山市全体で取り組んでいきます。

<中学校>

良好な点	改善したい点
<p>○自分には良いところがあると感じている生徒の割合が年々増加している。 (H30 71%→R1 75.8%→R3 77.9%)</p> <p>○人が困っているときは、進んで助けている生徒の割合が増加している。(R1 86.6%→R3 91.7%)</p> <p>○学校に行くのは楽しいと感じている生徒の割合が大幅に増加している。(R1 79.4%→R3 87.3%)</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきか考えている生徒の割合は、県や国の平均よりかなり高く、毎年増加している。 (市 55.2% 県 47.1% 国 43.8%) (H30 48% → R1 50.3% → R3 55.2%)</p> <p>○ICT 機器を使って意見交換や調べ学習に週1回以上取り組んでいると答えた生徒の割合が国や県に比べて多い。(市 55.3% 県 35.9% 国 34.8%)</p> <p>○1、2年生のときに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた生徒の割合が多い。(市 86.8% 県 79.3% 国 74.3%)</p>	<p>▲朝食を毎朝食べる生徒と起きる時間が決まっている生徒の割合がやや減少している。 (朝食 R1 84.8% → R3 81.8%) (起きる R1 58.2% → R3 57.5%) ※小学生の割合と比べるとかなり減少していることがわかる。</p> <p>▲平日に学習時間をしっかり確保できている生徒の割合(3時間以上)が大幅に減少している。全くしない生徒の割合は増加している。 (3時間以上 R1 46.7% → R3 31.5%) (全くしない R1 0.6% → R3 2.2%)</p> <p>▲学習時間は平日休日問わず、3時間以上している生徒の割合は国や県の平均より少ない。 (平日 市 31.5% 県 32.8% 国 41.8%) (休日 市 21.0% 県 25.3% 国 26.8%)</p> <p>▲これまで(1、2年生時のタブレットが配備</p>

<p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる生徒の割合が、大幅に増加している。 (R1 69.7% → R3 80.7%)</p> <p>○国語、数学ともに授業の内容がよくわかると答えた生徒の割合がR1に比べ増加し、国語においてはR1は県平均より下であったが、R3は上回っている。 (国語R1 33.3% → R3 39.8%) (数学R1 42.4% → R3 51.9%)</p> <p>○英語の学習に関する質問では、英語で話したり気持ちを伝えあったりすることができている生徒の割合が県や国に比べ多い。 (市 78.5% 県 72.9% 国 67.7%)</p> <p>○昨年度の臨時休校中は、先生や友達、保護者など身近な人とコミュニケーションをとりながら解決しようとした生徒の割合が多い。</p>	<p>される前)にICTを使用している頻度が月1回もしくはそれ以下と感じている生徒の割合が多い。(68.5%)</p> <p>▲今回の国語の問題で文章で答える問題に対し、解答しなかったりあきらめたりしたものがあがる生徒が増加している。 (R1 13.3% → R3 22.1%)</p> <p>▲昨年度の臨時休校中は勉強について不安を感じていた生徒の割合は、国や県の割合と同じく多い(66.3%)が、計画的な学習や規則正しい生活ができなかった生徒は全体の半数(51.9%)もいる。</p>
---	--

○自分の良いところがわかるということは、自分に自信をもてるようになっていけると言えます。さらに、友だちの良いところを見る目が養われ、それを伝えてあげるコミュニケーション能力が高まっているとも言えます。これからも良いところをたくさん伝えあえる仲間づくりを学校全体で行っていきます。

○道徳科としての授業の充実が図られてきたことが、生徒のやさしい心や人の役に立ちたいという気持ちを育てているのだと思われまます。教科書の題材を通して、自分事として考え、日々の生活の中に生かしていくことを今後も続けていきます。

○学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合が多いことは、仲間と一緒に活動し、達成感を味わうことができているからだと考えます。これからも協力して何かをやり遂げる経験を学習活動の中で積み上げていきます。

○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることは、ESDの実践と通じるものがあります。勝山の活性化をテーマに取り組んでいる、ふるさと教育、環境教育をさらに充実させていけば、考える力だけでなく実践力を育むことができます。結果、将来勝山をよくしていこうとする人材が増えてくれることが期待されます。10年20年先を見ながら、今できることに全力で取り組んでいきます。

○GIGAスクール構想により1人1台タブレット端末が配備され、勝山市としても昨年度の後半より授業を中心に取り組んできました。そのことにより、ICT機器を活用しているという意識が大幅に高くなったものと考えます。今後は使用頻度だけでなく、学習に対する効果やねらいを明確に示し、指導にあたっていきます。

▲毎日の朝ごはんを寝る起きる時刻に関する項目がよい結果になることは、規則正しい生活習慣が身に付いており、学習に集中して取り組むための十分な準備ができているということにもなります。しかし、中学生は県や全国の平均、前回の結果と比べてやや低い傾向にあることが心配です。寝る時間が遅くなると朝起きる時間も遅くなり、朝ごはんを食べる時間を確保できなくなります。寝る時間が遅くなる理由を考え、どう行動するとよいかを、今一度考えてみてください。

▲学習の時間は、全国や県の調査結果に比べ低かった理由として、塾や家庭教師等で学習している生徒が

少ないことに関係していると考えられます。学校で与えられた課題だけの時間だけで足りない分を、自分で考えて自主学習を進めながら、時間だけでなく内容にもこだわっていくよう指導していきます。また、理解度の確認を行うことにも力を入れ、学力を高めていけるよう努めてまいります。

▲昨年度の臨時休業中、勉強に対する不安がある生徒の割合が多く、規則正しい生活を送ることができなかった生徒の割合も多い結果が出ました。自分ができることを確実に継続して行うことで不安が解消されることもあります。制限されることが多い中で、自分のやるべきことを理解して主体的に行っていく力がこれから必要になってきます。そこで大切なことは自分の生活をふり返って次に生かすことだと考えます。

(2) 正答率との間に関連が見られた質問項目について

新規・変更・削除となっている質問事項がありますが、ここ数年の分析と今年度、特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを8例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 6年連続同じ傾向	小学国語	8ポイント差
	小学算数	40 "
	中学国語	25 "
	中学数学	9 "
前学年までに受けた授業において、うまく伝わるように、理由を示したり、資料や文章、話の組み立てを工夫したりしていると答えている児童生徒は、正答率が高い。 5年連続同じ傾向	小学国語	18ポイント差
	小学算数	11 "
	中学国語	30 "
	中学数学	25 "
家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向	小学国語	5ポイント差
	小学算数	2 "
	中学国語	10 "
	中学数学	17 "
「〇〇の教科は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語	12ポイント
	小学算数	11 "
	中学国語	10 "
	中学数学	15 "
前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと答える児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語	30ポイント差
	小学算数	38 "
	中学国語	14 "
	中学数学	16 "
前学年までに受けた授業において各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作	小学国語	16ポイント差
	小学算数	14 "

り出ししたりする活動を行っていたと答える児童生徒は、正答率が高い。	中学国語	9	〃
	中学数学	8	〃
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答える児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	28	ポイント差
	小学算数	12	〃
	中学国語	18	〃
	中学数学	28	〃
国語では解答を文章で書く、算数（数学）ではわけや求め方などを書く（説明する）問題に最後まで書こうと努力できた児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	34	ポイント差
	小学算数	15	〃
	中学国語	29	〃
	中学数学	39	〃

○基本的な生活習慣に関する結果を見ると、特に、起床時刻については、6年連続で相関関係が見られました。中学生においては、朝ごはんをしっかり取る人とそうでない人の間にも大きな差が見られました。家庭においても自分で計画を立て見通しをもって学習に取り組むことは、規則正しい生活習慣を身に付けるために欠かせないことです。学校生活でも時間を考えて、見通しをもって活動しているように、帰宅後や休日も見通しをもって生活する工夫ができるとよいと思います。一度紙に書き出して、スケジュールを目につくところに貼っておく工夫をしてみるのもよいかもしれません。まずは、できることからやってみましょう。

○好きな教科の正答率が高いという結果が見られました。好きだからわかり、わかるからより好きになるのだと考えられます。まずは、教員がわかりやすい授業に努めます。児童生徒のみなさんは、わからないこと疑問に思ったことは進んで聞いたり調べたりして、積極的に取り組んでいきましょう。

○各教科や総合的な学習の時間で、課題解決に向けて自分で考え自分から取り組むことはもちろん、学んだことを次に生かし、自分の思いや考えをもとに新しいものを作り出す活動を行っているという経験が学力の定着に大きく関わっていることがわかります。これらの学習は主体性を育て、意欲的に学ぶということにつながります。このような学習活動を通して達成感を味わわせ、次への意欲とつなげていきます。

【4】今後の方針について

（1）学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

＜ア＞安心できる居場所づくり

児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるように、安心できる集団を育てていきます。そのために、児童・生徒がお互いのよいところを認め合い、思いやりをもって接することができるよう、全教職員で取り組んでまいります。自己有用感や学級への適応感を高めるための取り組みを取り入れていきます。しかし、学校だけでは難しい部分もあります。ご家庭との連携を密にして、児童生徒の気持ちに寄り添った支援をしていきたいと考えます。児童生徒が毎日笑顔で過ごせるよう努めていきます。

＜イ＞楽しむ教育、引き出す教育の推進

知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成は、「できた。わかった。」が土台になり、そこから次への意欲が湧き、さらなる向上心へとつながっていきます。そのためには、楽しいと感じる授

業、児童生徒からたくさんの方のことを引き出す授業が必要です。自分の考えを人に伝えることが楽しい、もっとみんなの考えを聞きたいという児童生徒を増やしていけるよう、今年度完備されたタブレット端末を活用しながら授業の工夫を行っていきます。また、授業の見通しを持たせ、学んだことを振り返らせることで、知識の積み上げ、定着を図っていくことを大切にしていきます。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

早寝早起き朝ごはんを合言葉に、勝山市中の小中学生が規則正しい生活を送ることができるようにお願いします。簡単なことのように思いますが、ちょっとしたことですぐに崩れてしまうのが生活習慣です。スマホ保有率が上がったことや1人1台タブレット端末の導入が生活リズムを崩す原因とならないようにしていくことが学校と保護者の務めだと考えます。使い方や時間設定の工夫など、お子さんと話し合っ決めていきながら、自主性を養っていくことができると、これからの情報化社会をしっかりと生き抜いていく力になります。

<イ>おうち時間の使い方の工夫

コロナ禍により、家族で過ごす時間は以前に比べて多くなっているのではないかと思います。おうちで何気なく過ごしたり、家にいるのに1日中別々の部屋で過ごしたりということが増えると、物理的な距離は近くても心の距離は遠くなっていきます。新しいことにチャレンジしたり、一緒に趣味を見つけたりする中で、たくさんコミュニケーションをとってけるとよいです。制限がかかりストレスが増える学校生活の負担を少しでも軽減してあげ、意欲をもって学習に取り組むことができるように支援していきましょう。教員も全力で学習環境を整えていきます。

【5】むすび

小中学校両教科において、県平均、全国平均を上回る結果を達成することができました。勝山市全体として、今回の結果とこれまでの取組を分析し、よい結果につながったと考えられる取組については継続し、もう少し力を入れていく必要があると感じられる結果になった部分の取組については改善と見直しを図っていきます。そしてsociety5.0において求められる力である、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力を培っていけるよう努めてまいります。

この全国学力・学習状況調査では、学校教育の成果の一部を調査したに過ぎませんが、これからの社会を生きぬくための力を育成するためには、小中学校での学習内容を確実に習得することが重要な基礎となっていきます。そうした観点から、この調査の結果を踏まえ、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。